

「学生部だより」

2013年 12月 VOL.31

プロフェッショナルの現場

みなさんこんにちは。

臨床実習も終わり、試験へ向けてのラストスパートというところでしょうか？

私は歯科衛生士として働き始めて3年目になります。働き始めて思ったことは、一人一人の患者さんから学ぶ事がとても多いと言うことです。どのようにしたら伝わるのか、技術、会話力、日々勉強です。いろいろなことがあります、職場、先輩にも恵まれ、毎日楽しく仕事をしています。

学生時代、試験前のことを振り返ると、ひたすら過去問題を解いていたことを思い出します。「たぶん机に向かってこんなに勉強するのも今だけだろうなあ」と思いながら、皆さんも試験当日にもっとやっておけば良かったと後悔しない様に、今頑張ってください。

○齋藤 千夏さん (齋藤歯科医院)



今日もむせないで
おいしく食べましょう!

みなさん、こんにちは。

上松川診療所の歯科口腔外科の吉野です。

歯科口腔外科というと抜歯や手術を毎日行っているとイメージがあるのではないのでしょうか？でも私の仕事内容は摂食嚥下障害の患者さんの嚥下内視鏡検査のアシストや、その後の指導(食形態、トロミの濃さ、食事時の姿勢など)を行うことです。摂食嚥下は言語聴覚士の仕事じゃないのと思うかもしれませんが、食べるということは口を使うことなので歯科衛生士の私達も無関係ではなくなってきています。ただ口の中の問題だけで摂食機能障害が起こるわけではなく、一人一人いろいろな問題があり生じている障害です。そのため仕事内容は複雑ですが、やりがいもあります。今までずっと絶食だった方が、食べることが出来るようになった時の喜びは本人だけではなく、周りの人の喜びでもあります。超高齢化社会を迎えた今、歯科衛生士の仕事は診療室の中だけではなく、全身のことが分かる歯科衛生士になれるよう努力して下さい。そしていくつになっても学ぶことを辞めないでください。興味があればいつでも訪ねて来てくださいね。

○吉野 ひろみさん (上松川診療所 口腔外科)



嚥下内視鏡検査
の様子



真剣なまなざし

福島県総合療育センターは、児童福祉法に基づく肢体不自由児施設で医療法に基づく病院です。障害を持つ子供達に対して通所あるいは入所により治療・訓練・保育・生活指導を総合的にを行っています。

外来は全8科あり歯科は歯科医師会(郡山歯科医師会協力会)30名・歯科衛生士(嘱託)4名・看護師1名で障害を持つ子供達または疑いのある子供達の早期発見・早期治療を行っています。

円滑な治療の介助・患者の安全確保(全身状態・バイタルチェック・ユニットからの転落防止など)を他科のスタッフと連携をとりながら治療や口腔ケアの向上に努めています。

○布広 裕子さん (福島県総合療育センター)



布広さんです!

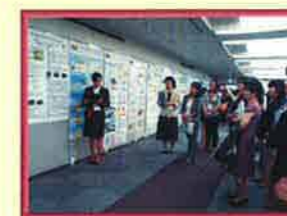
『日本歯科衛生士学会第8回学術大会に参加して』

9月 神戸国際会議場

山守 理真 記

1年に1回の日衛学会に参加すると「井の中の蛙大海を知らず」と思い知らされるが、逆に活力が湧いてきて、明日から頑張ろう(ファイト〜一発!)と誰もが思う。

本県から2名の会員がポスター発表。将来は皆様と一緒に参加できることを楽しみにしています。



<ポスター発表の様子>

菅野洋子会員(左)
鈴木陽子会員(右)

<九州の学生会員の発表>

<相双支部の皆さん>

『第30回日本障害者歯科学会に参加して』

10月 神戸国際展示場

福島県で唯一の障害者歯科認定歯科衛生士丹野直子さんと学会に参加してきました。障害者認定歯科衛生士は、日本歯科衛生士会の会員であることも条件の一つです。私も認定を取るため日々勉強に励んでいます。皆さんもまずは国家試験合格に向け頑張ってください。



<グループワークの様子>



<ポスター会場>

発行/一般社団法人福島県歯科衛生士会
組織委員会
〒960-8015 福島市仲間町6-6
福島県歯科医師会館内

